

東商けいきょう集計結果

(中小企業の景況感に関する調査)

平成26年10～12月期

平成26年12月9日
中 小 企 業 部

東京の景況は改善、先行きはやや慎重な姿勢。

- 「業況DI」(前年同期比・全業種)は、前期と比べ6.3ポイント改善し▲4.0となった。業種別にみると、製造業を除く4業種で改善した。建設業は官民の需要増加を受け+16.4ポイント、小売業は消費増税の反動減が解消されつつあり、+16.3ポイントと大きく改善した。製造業は、国内生産の低迷などが響き-3.1ポイント悪化した。来期の見通し(前年同期比・全業種)は、今期と比べ-2.9ポイントと小幅に悪化し、やや慎重な姿勢が見られる。
- 「売上DI」(前年同期比・全業種)は、前期と比べ4.4ポイント改善し▲0.9となった。業種別では、業況と同様に建設業は+16.8ポイント、小売業は+9.9ポイントと大きく改善した。卸売業は「減少」から「不変」への変化により実質横ばい、サービス業もほぼ横ばい圏での動きとなったが、製造業は-2.7ポイント悪化した。来期の見通し(前年同期比・全業種)は、今期と比べ2.5ポイントの小幅悪化にとどまり▲3.4となった。
- 「採算DI」(今期水準、「黒字」と回答した企業-「赤字」と回答した企業の割合・全業種)は、前期と比べ2.5ポイント改善し16.6となり、11期連続黒字超を維持した。業種別では、サービス業は+8.2ポイント、製造業は+6.4ポイント、建設業は+4.1ポイント改善した。
- 「資金繰りDI」(前年同期比・全業種)は、前期と比べ1.0ポイント改善し▲6.2となった。「民間金融機関の貸出姿勢DI」(前年同期比・全業種)は、前期と比べ1.7ポイント改善し3.7となった。

【調査要領】

○調査期間：平成26年11月6日～11月14日

○調査項目：業況、売上、採算(経常利益)、資金繰り、民間金融機関の貸出姿勢

○回答数：893社(回答率36.4%)

○調査対象：東京23区内の中小企業2,453社

○調査方法：FAXおよび経営指導員による聴き取り

＜業種構成＞・製造業225社(25.2%)・建設業98社(11.0%)・卸売業151社(16.9%)・小売業105社(11.8%)・サービス業314社(35.2%)

※ 本集計結果におけるDI値とは、「好転」「良い」「増加」「好調」「黒字」「緩和」「緩い」と回答した企業-「悪化」「悪い」「減少」「不調」「赤字」「厳しい」と回答した企業の割合。

※ 全ての質問について、割合は四捨五入を行っているため、必ずしも合計が100.0%にならない。

※ 本調査結果の集計にあたっては、独立行政法人中小企業基盤整備機構が実施している「中小企業景況調査」の調査結果を一部活用している。

1. 業況

○「業況DI」（前年同期比・全業種）は、前期と比べ6.3ポイント改善し▲4.0となった。業種別にみると、製造業を除く4業種で改善した。建設業は官民の需要増加を受け＋16.4ポイント、小売業は消費増税の反動減が解消されつつあり、＋16.3ポイントと大きく改善した。製造業は、国内生産の低迷などが響き－3.1ポイント悪化した。来期の見通し（前年同期比・全業種）は、今期と比べ－2.9ポイントと小幅に悪化し、やや慎重な姿勢が見られる。

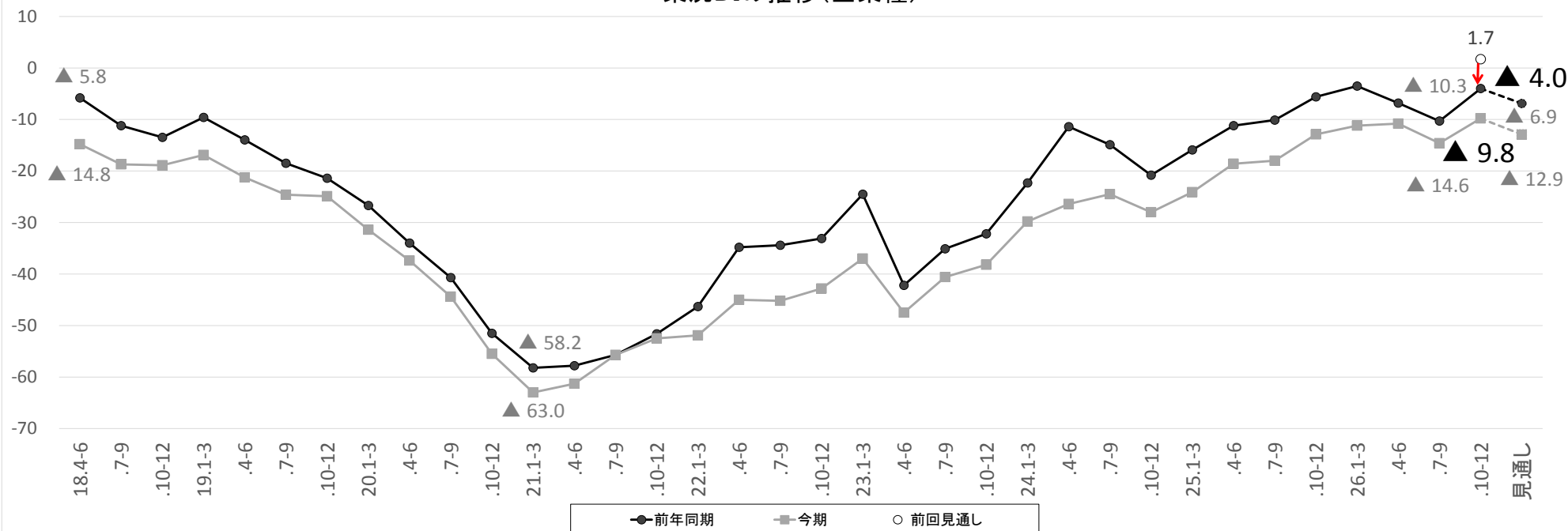
【企業の声】 公共工事関連の受注が増えており、好況感がある。（建設業：基礎杭打設工事）

10月になってから急に気温が下がる日があり、冬物が早く売れだしている。（小売業：婦人衣料、アクセサリ、バッグ）

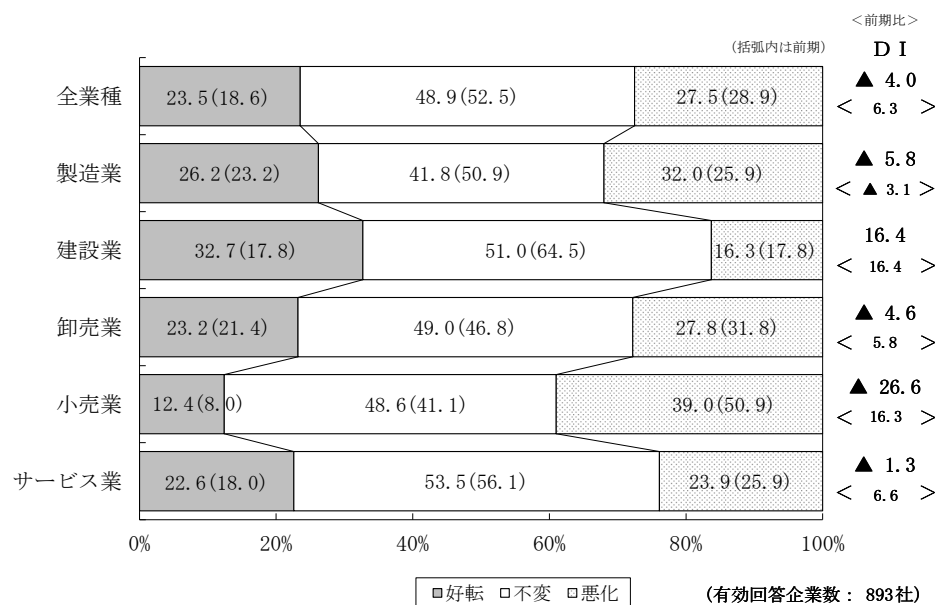
円安により訪日外国人客が増加し、客数が増加している。（サービス業：宿泊）

取引先からの受注減で売上が減少し、原材料費の値上りで利益も減少している。（製造業：表面処理設備の設計製作、革小物、事務用印刷物）

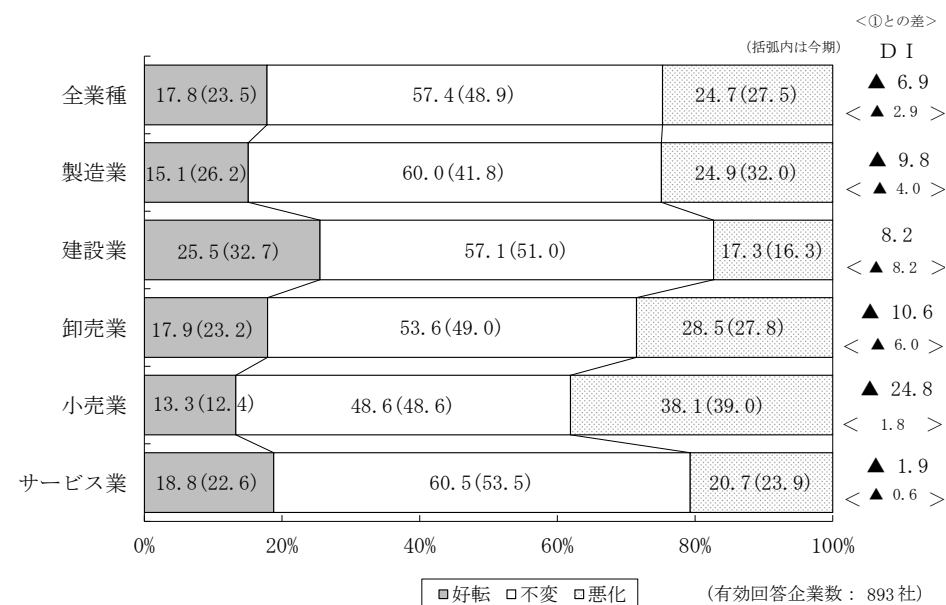
業況DIの推移(全業種)



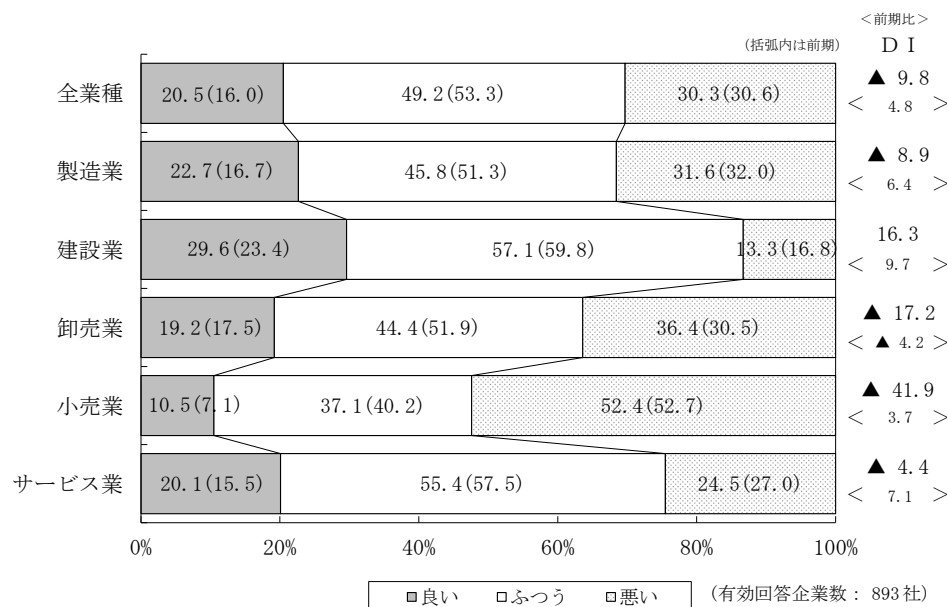
①今期の業況（前年同期比）



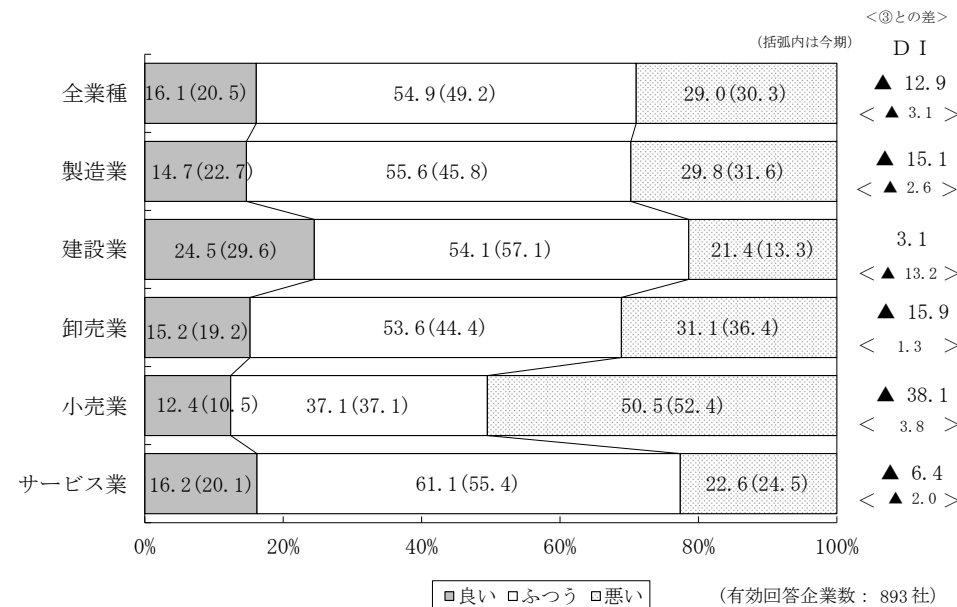
②来期の業況の見通し（前年同期比）



③今期の業況（水準）



④来期の業況の見通し（水準）

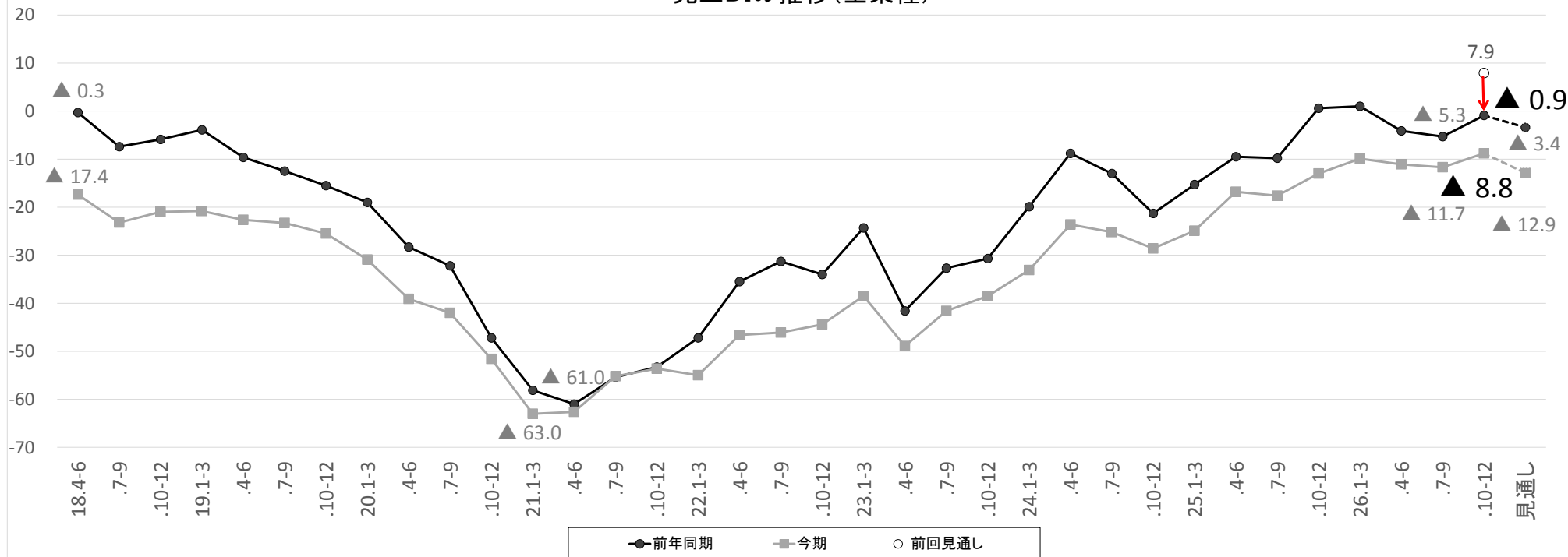


2. 売上

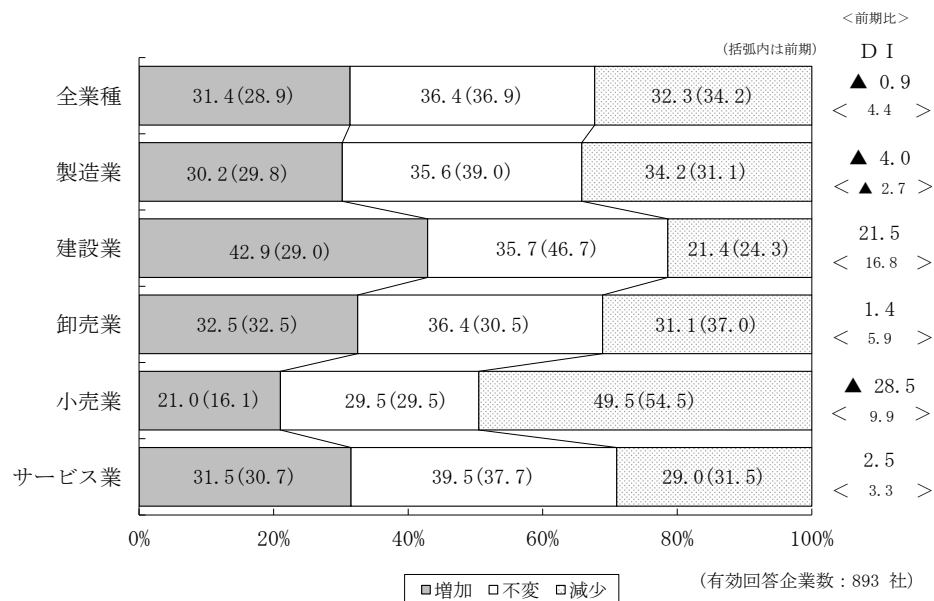
○「売上DI」（前年同期比・全業種）は、前期と比べ4.4ポイント改善し▲0.9となった。業種別では、業況と同様に建設業は+16.8ポイント、小売業は+9.9ポイントと大きく改善した。卸売業は「減少」から「不変」への変化により実質横ばい、サービス業もほぼ横ばい圏での動きとなったが、製造業は-2.7ポイント悪化した。来期の見通し（前年同期比・全業種）は、今期と比べ2.5ポイントの小幅悪化にとどまり▲3.4となった。

【企業の声】 仕事の引き合いも多く順調な受注状況。人手不足のため仕事を全て受けることはできないが、年内は予定が埋まっている状態。（建設業）仕入単価は上昇しているが、ASEAN地域などからの引合いや受注が増加傾向にある。（卸売業：和紙（手すき／機械すき）製品）増税後の反動減により取引先の販売が大きく落ち込み、売上が減少した。（製造業：スポーツ用品製造）

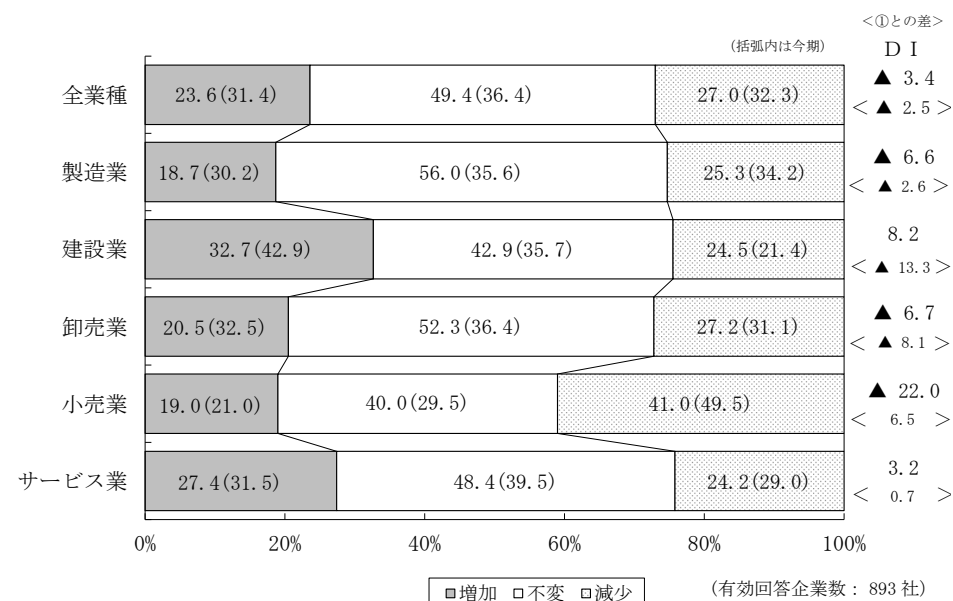
売上DIの推移（全業種）



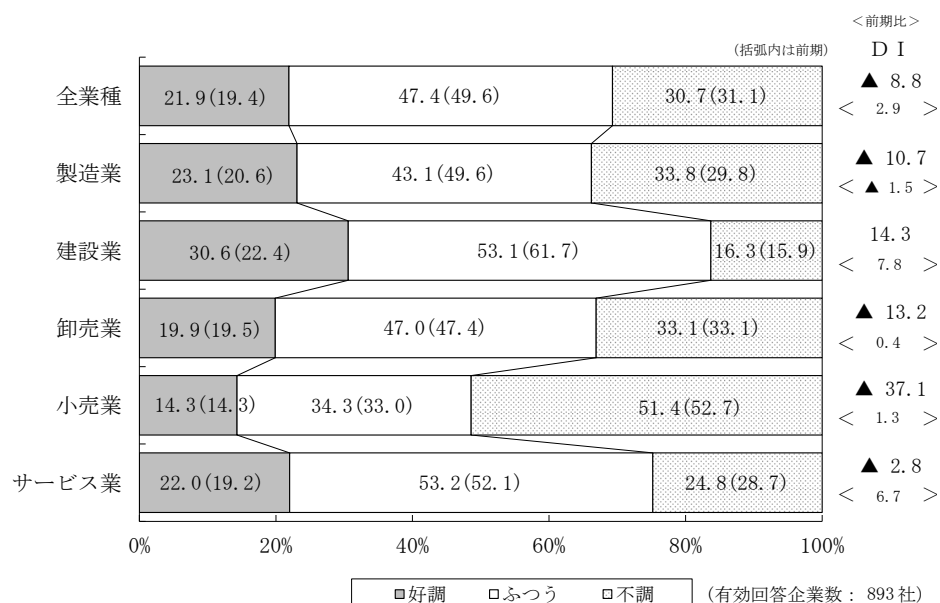
①今期の売上（前年同期比）



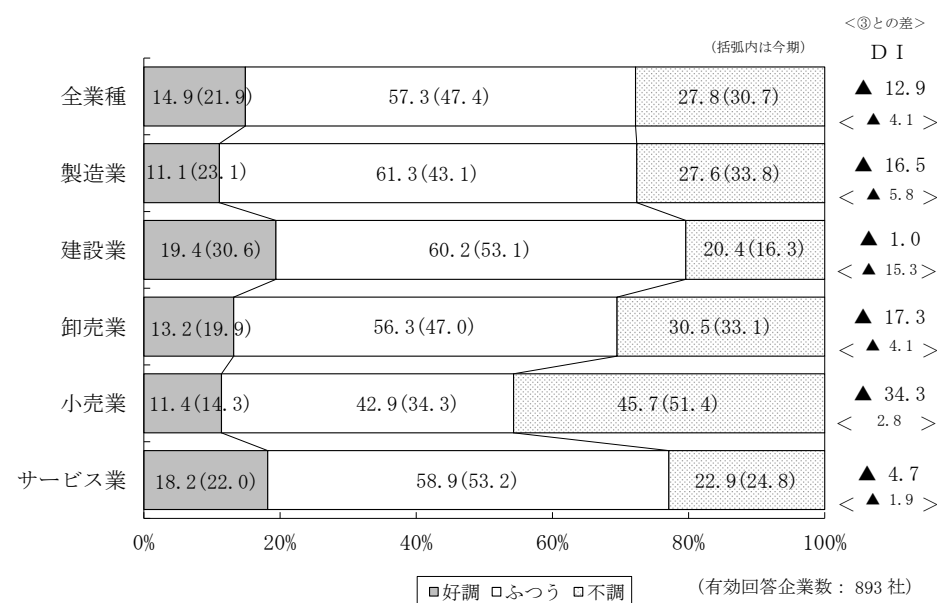
②来期の売上の見通し（前年同期比）



③今期の売上（水準）



④来期の売上の見通し（水準）



3. 採算（経常利益）

○「採算DI」（今期水準、「黒字」と回答した企業－「赤字」と回答した企業の割合・全業種）は、前期と比べ2.5ポイント改善し16.6となり、11期連続黒字超を維持した。業種別では、サービス業は+8.2ポイント、製造業は+6.4ポイント、建設業は+4.1ポイント改善した。一方、卸売業は円安による仕入れ価格の上昇が響き-11.5ポイントの大幅悪化となった。

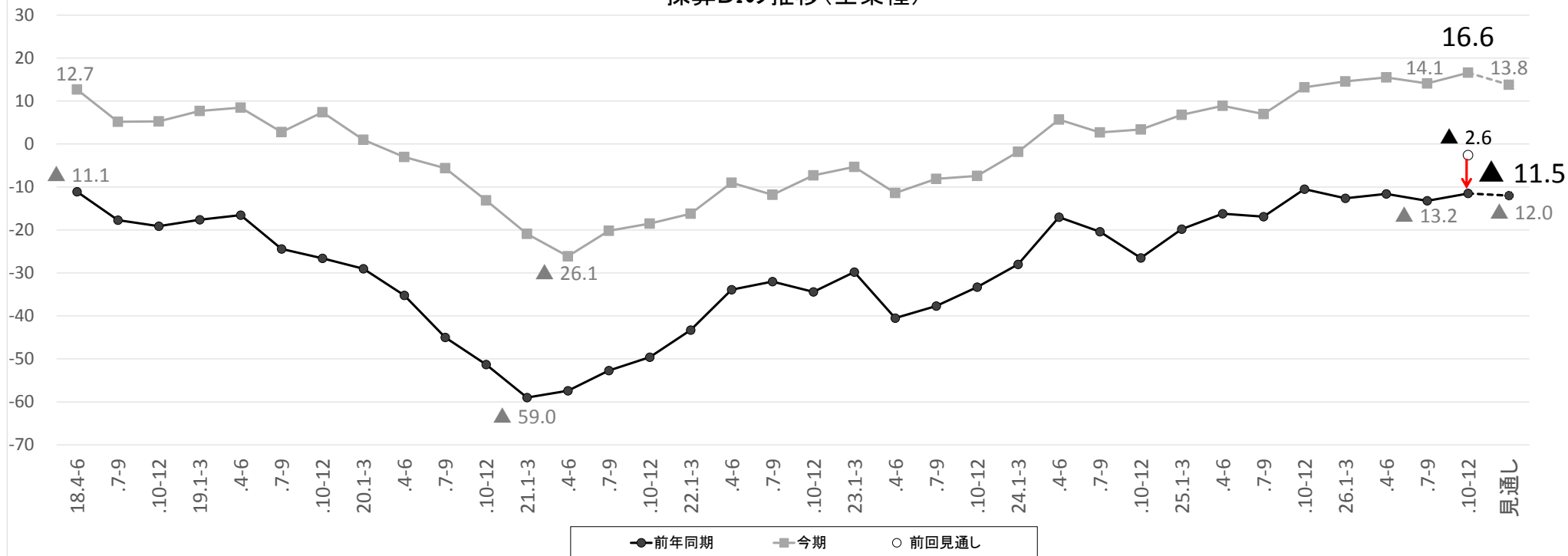
【企業の声】不動産価格上昇による売上増加により採算も好転。（サービス業：不動産）

原材料の値上げに伴う価格転嫁を円滑に行ったことで利益を確保できた。（製造業：金属製品部品の焼き付塗装）

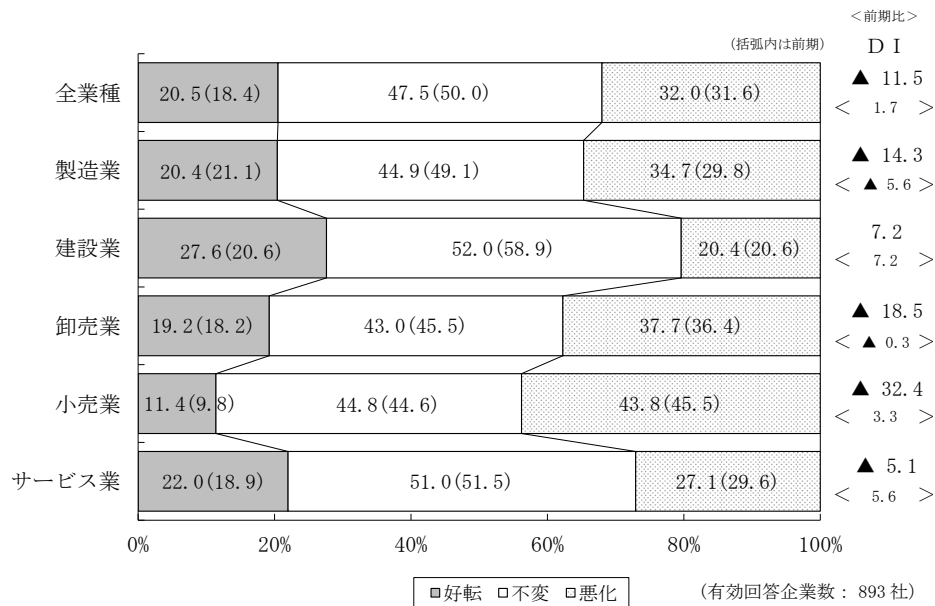
円安のため輸入商品の価格が上昇しているが、国内での値上げが非常に難しく利益が大幅に減少した。（卸売業：水産物輸入）

円安で仕入価格の上昇が続いており、在庫で対応していたが、今後は販売価格への転嫁をせざるを得ない。（小売業：ペットフード）

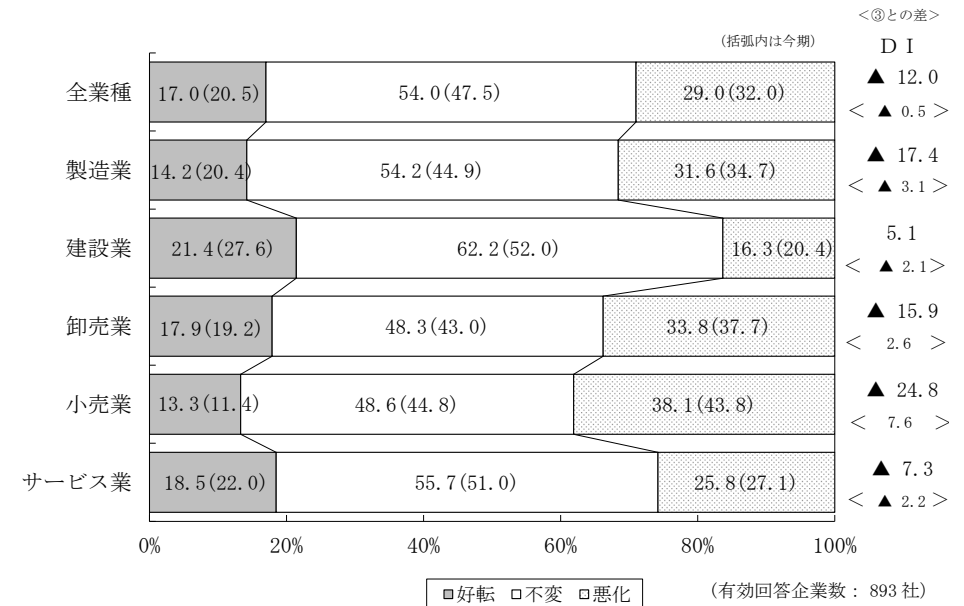
採算DIの推移（全業種）



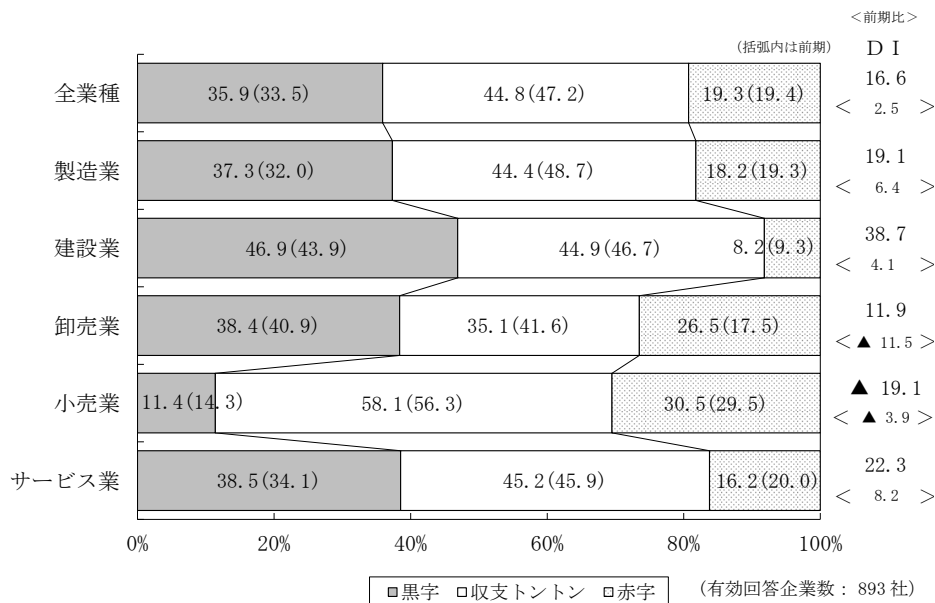
①今期の採算（前年同期比）



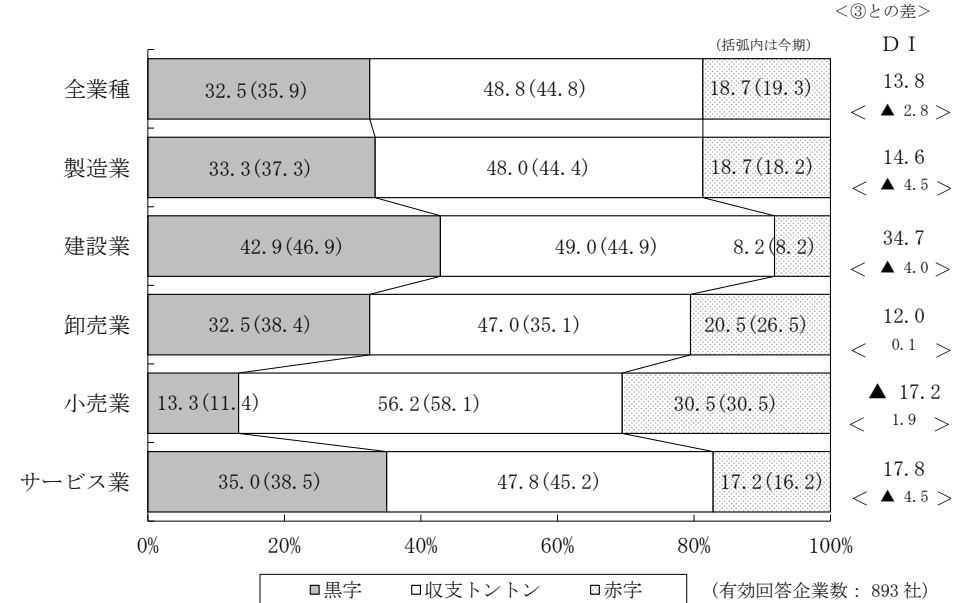
②来期の採算の見通し（前年同期比）



③今期の採算（水準）



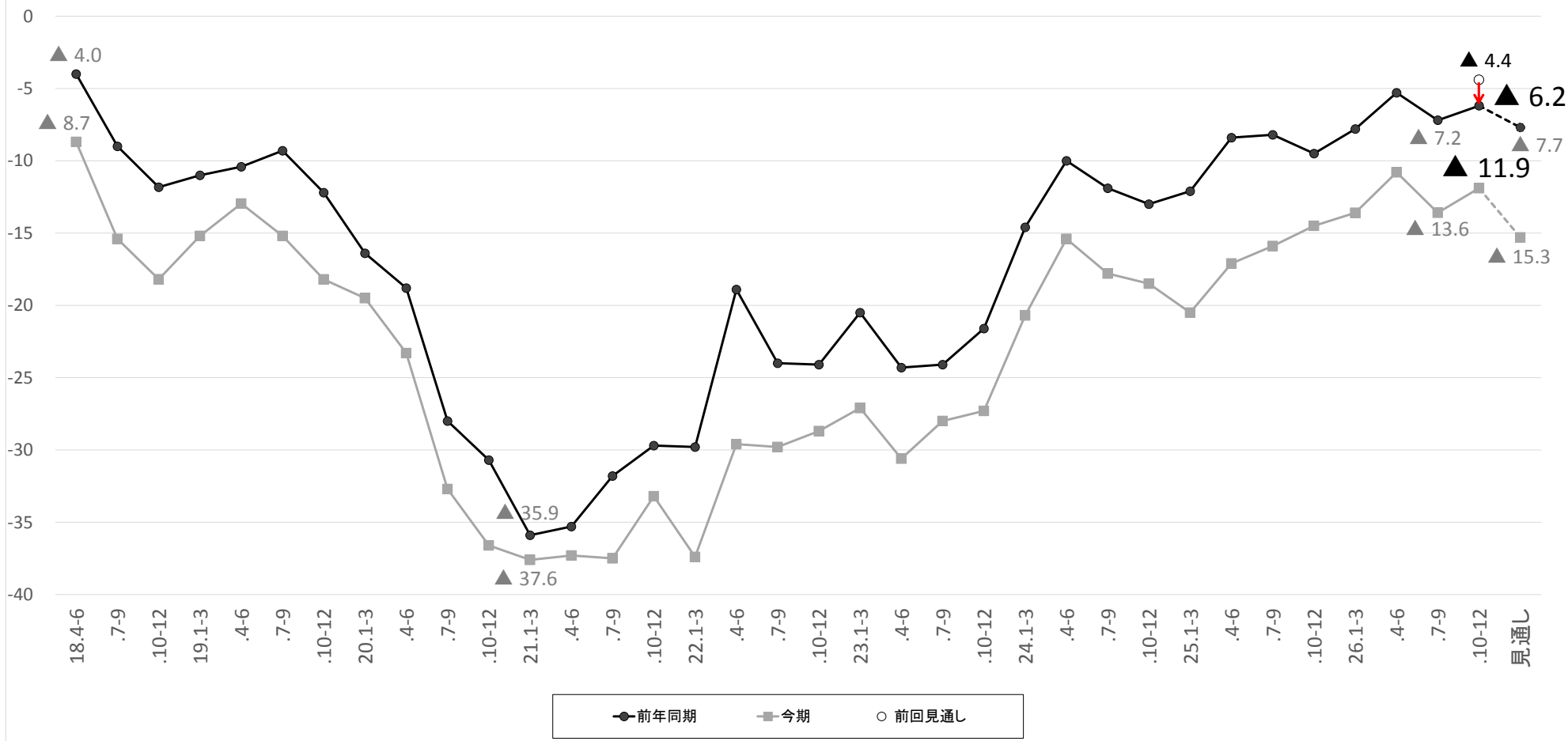
④来期の採算の見通し（水準）



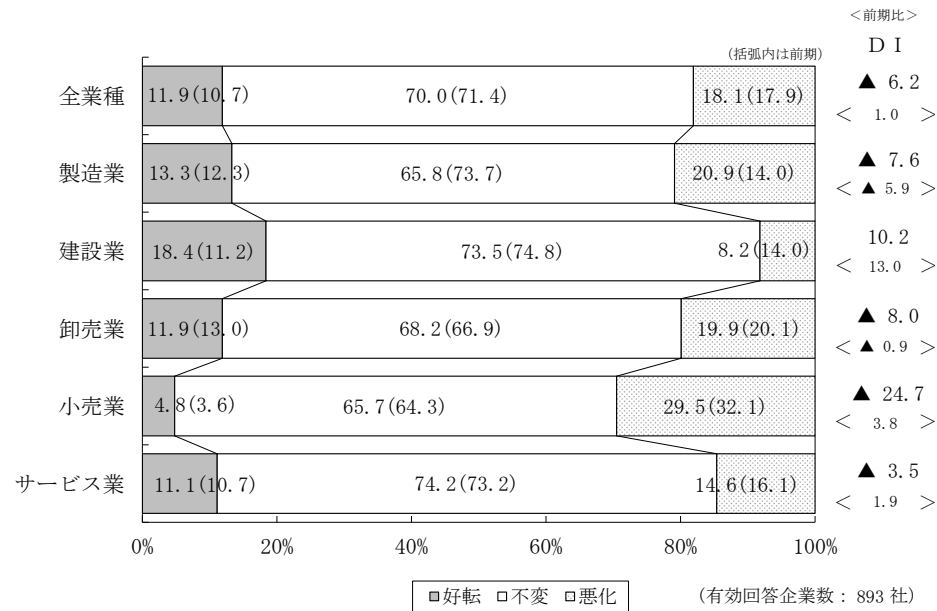
4. 資金繰り

○「資金繰りDI」(前年同期比・全業種)は、前期と比べ1. 0ポイント改善し▲6. 2となった。

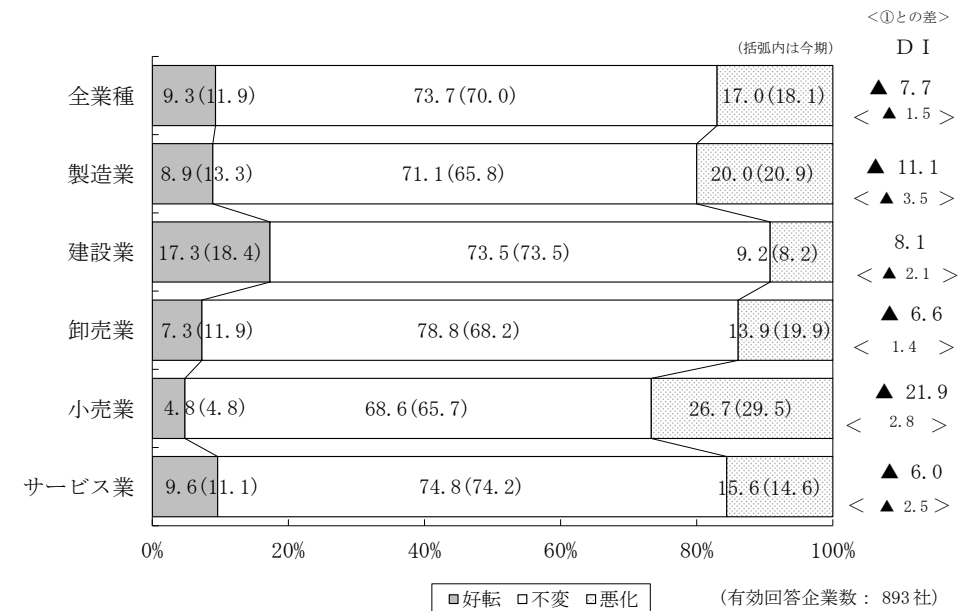
資金繰りDIの推移(全業種)



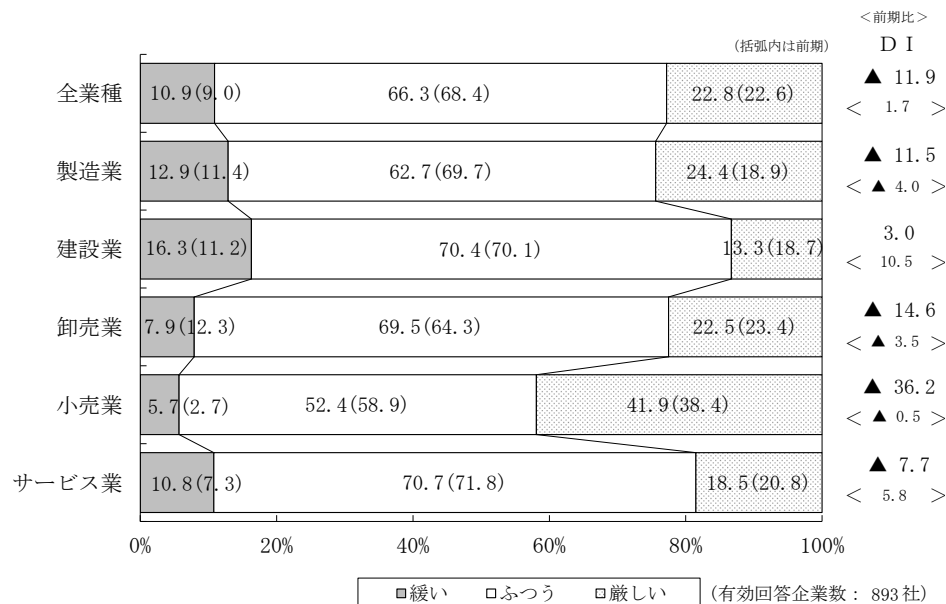
①今期の資金繰り（前年同期比）



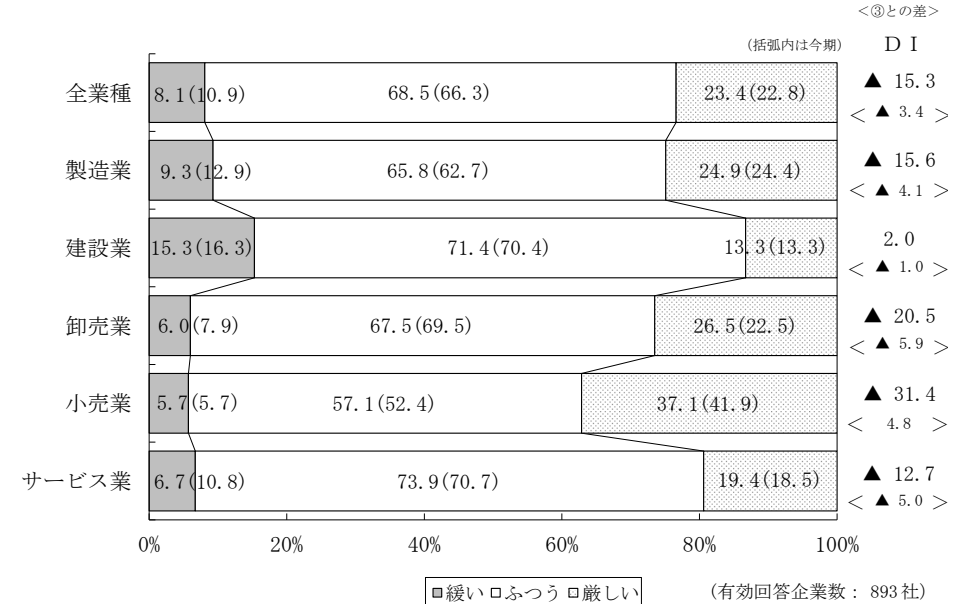
②来期の資金繰りの見通し（前年同期比）



③今期の資金繰り（水準）



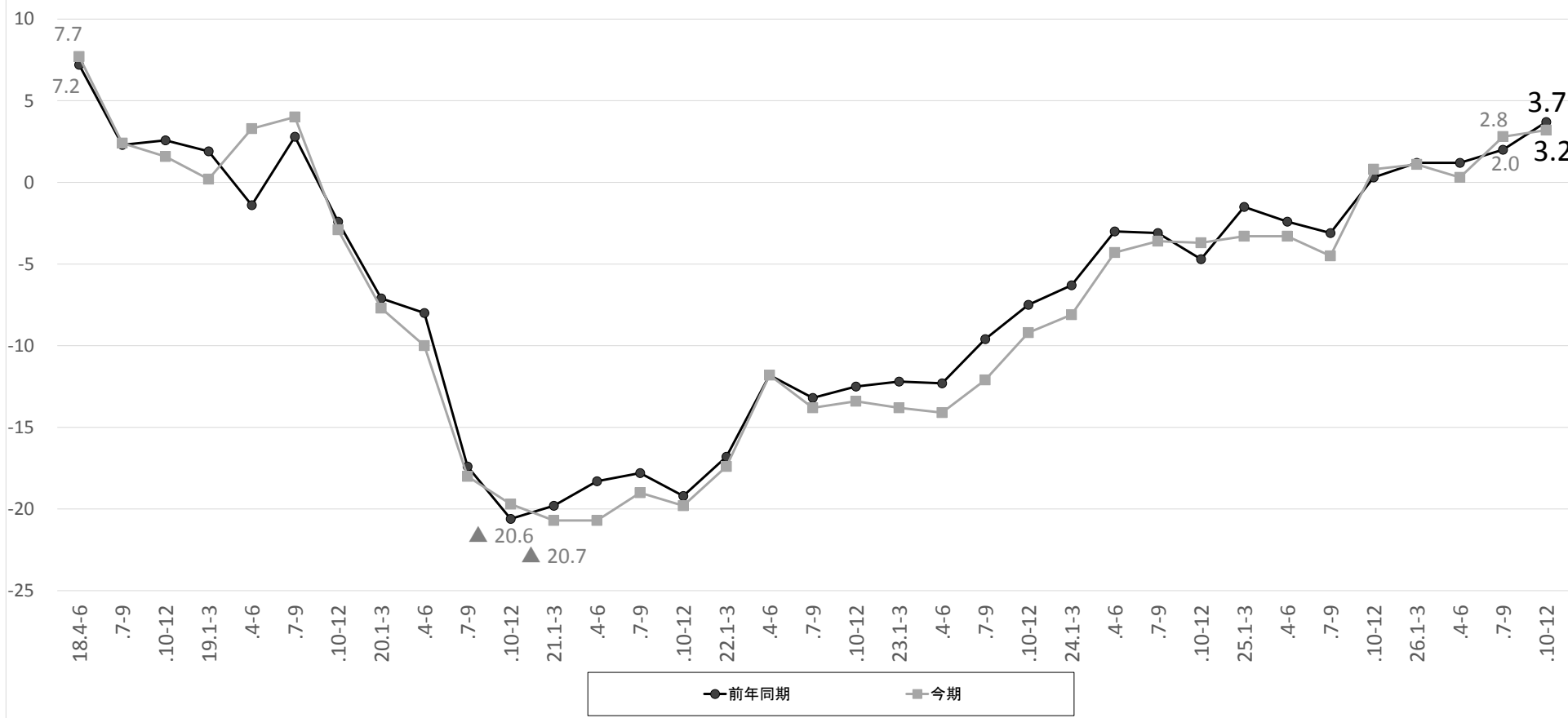
④来期の資金繰りの見通し（水準）



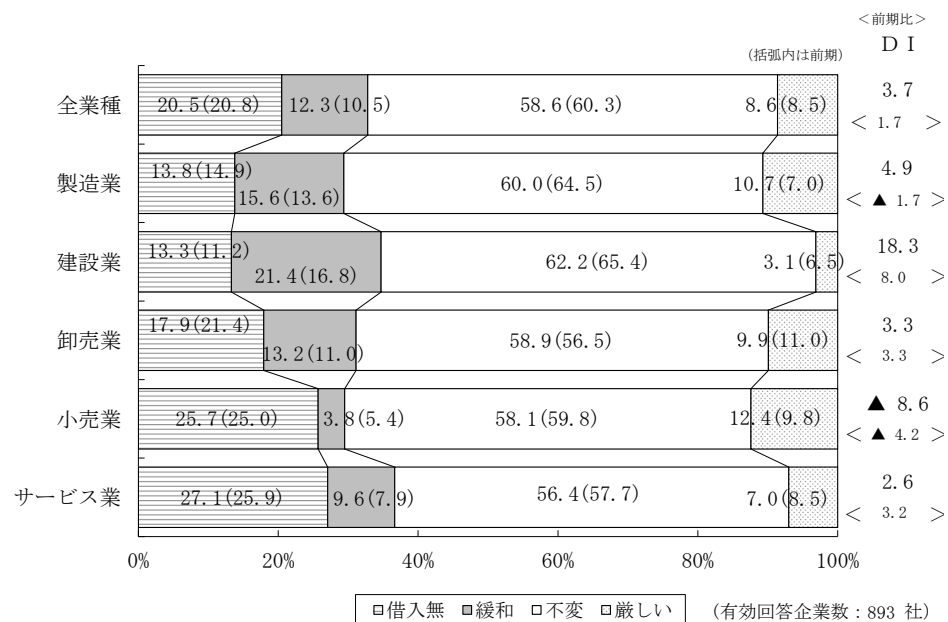
5. 民間金融機関の貸出姿勢

○「民間金融機関の貸出姿勢DI」（前年同期比・全業種）は、前期と比べ1. 7ポイント改善し3. 7となった。

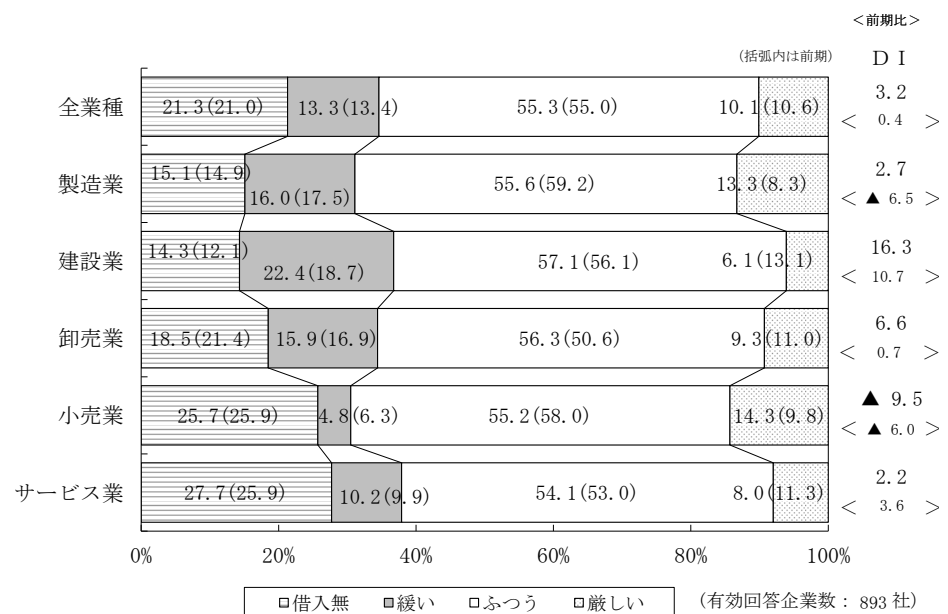
貸出姿勢DIの推移(全業種)



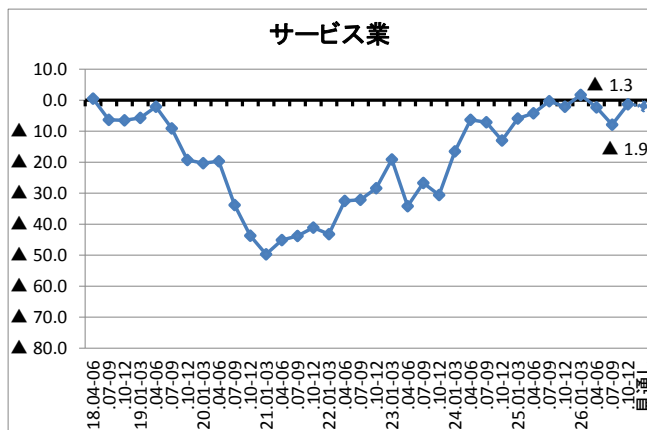
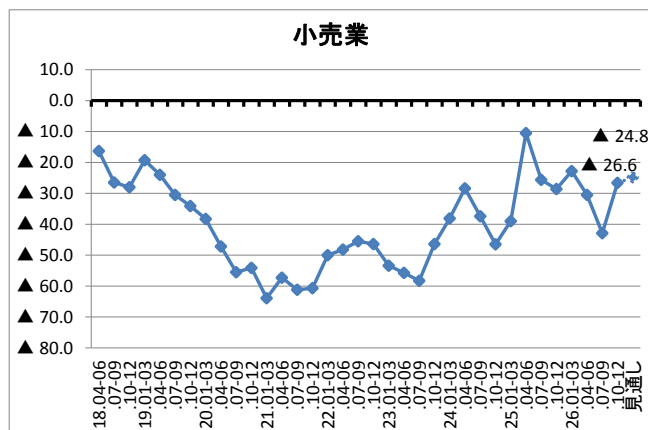
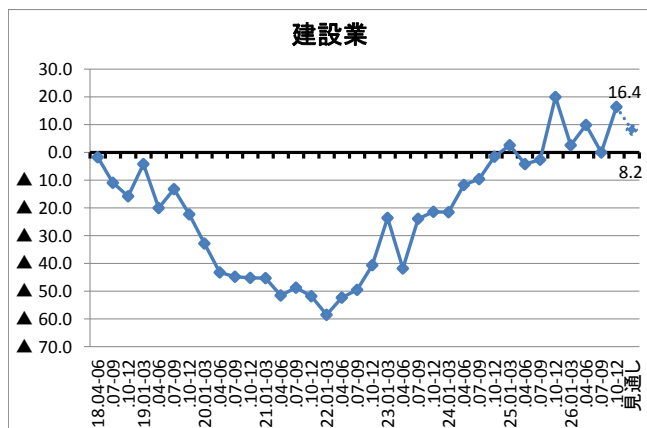
①民間金融機関の貸出姿勢（前年同期比）



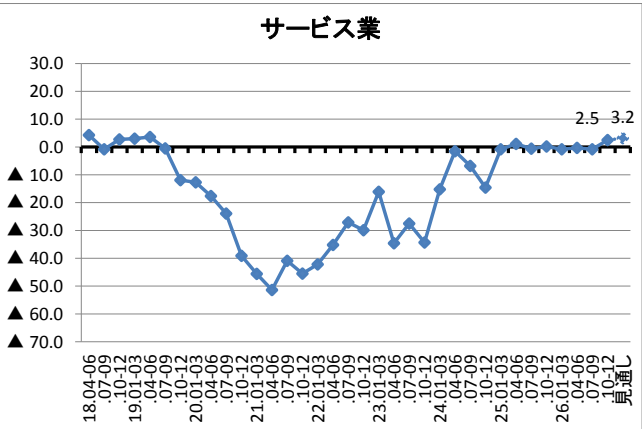
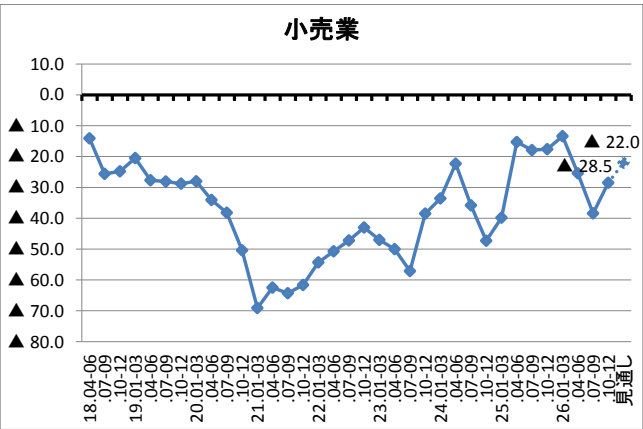
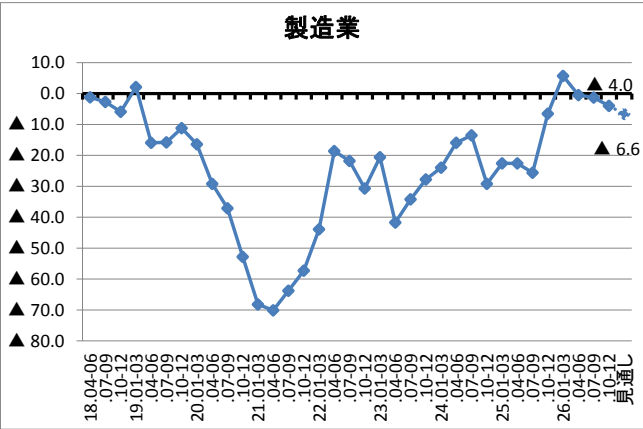
②民間金融機関の貸出姿勢（今期水準）



参考1＜業況DⅠ 業種別・前年同期比＞



参考2 <売上D I 業種別・前年同期比>



参考3＜採算D I 業種別・今期水準＞

